

中 央 区 内 景 気 動 向 調 査

令和 7 年 8 月調査結果

令和 7 年 9 月 17 日

中 央 区

— 総 括 —

令和7年8月の動き

中央区内における8月の現状判断D Iは合計で51.2と、前回調査から6.3ポイント上昇している。景気の先行き判断D Iは合計で48.8と、前回調査から5.6ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I) 合計	令和7年			前回調査 からの変化
	4月	6月	8月	
現状判断D I	49.4	44.9	51.2	(6.3)
先行き判断D I	36.7	43.2	48.8	(5.6)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
（1）景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
（2）景気の現状に対する判断理由	6 頁
（3）景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
（1）家計動向関連	
（2）企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、令和 7 年 8 月調査の調査票発送は 8 月 7 日（木）、回答期限は 8 月 20 日（水）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 43 名、有効回答率は 86.0%であった。

7 D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、D I を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3 か月前と比較しての中央区内における現状判断D Iは合計で 51.2 と、前回調査から 6.3 ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連D Iは 43.4 と、前回調査から 0.4 ポイント低下し、企業動向関連D Iは 57.3 と、前回調査から 11.5 ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が 12.6 ポイント増加し、「悪くなっている」と回答した人の割合が 6.8 ポイント減少した。

図表 1－1 各分野における景気の現状判断D Iの推移表

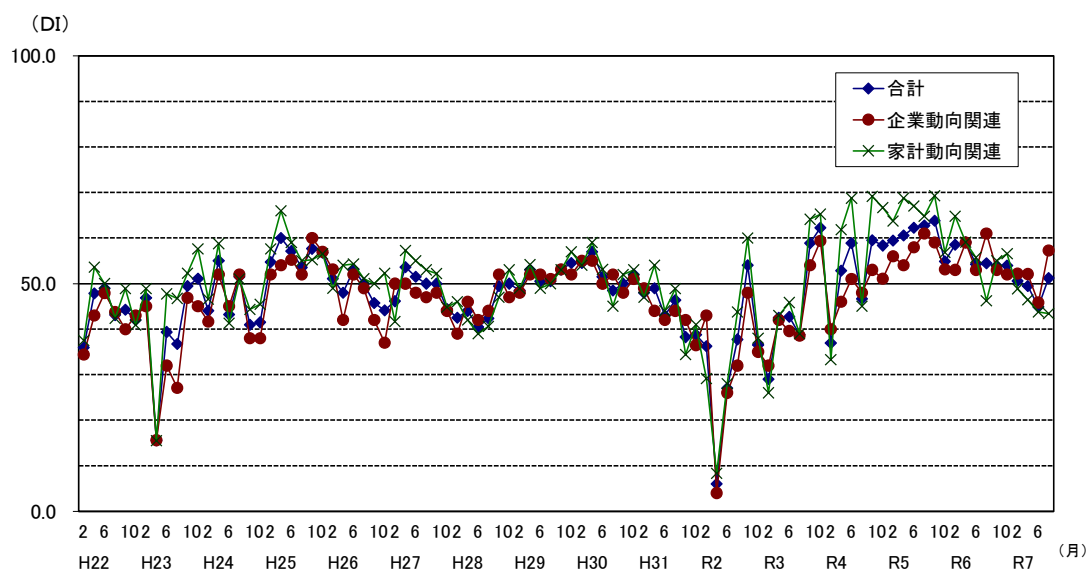
(D I)		令和 7 年			
		4 月	6 月	8 月	(変化幅)
合計		49.4	44.9	51.2	(6.3)
家計動向関連		46.4	43.8	43.4	(-0.4)
小売関連		47.7	40.0	37.5	(-2.5)
飲食関連		—	—	—	(—)
サービス関連		41.7	50.0	55.0	(5.0)
住宅関連		—	—	—	(—)
企業動向関連		52.1	45.8	57.3	(11.5)
製造業		50.0	30.0	40.0	(10.0)
非製造業		52.6	50.0	61.8	(11.8)

(備考) 家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 1－2 構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
令和 7 年	4	2.2%	26.7%	37.8%	33.3%	0.0%
	6	2.3%	20.5%	38.6%	31.8%	6.8%
	8	7.0%	16.3%	51.2%	25.6%	0.0%
(変化幅)		(4.7)	(-4.2)	(12.6)	(-6.2)	(-6.8)

図表 1－3 各分野における景気の現状判断D Iの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で48.8と、前回調査から5.6ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは47.4と、前回調査から7.4ポイント上昇し、企業動向関連DIは50.0と、前回調査から4.2ポイント上昇している。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が13.0ポイント減少し、「やや良くなる」と回答した人の割合が9.7ポイント増加した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

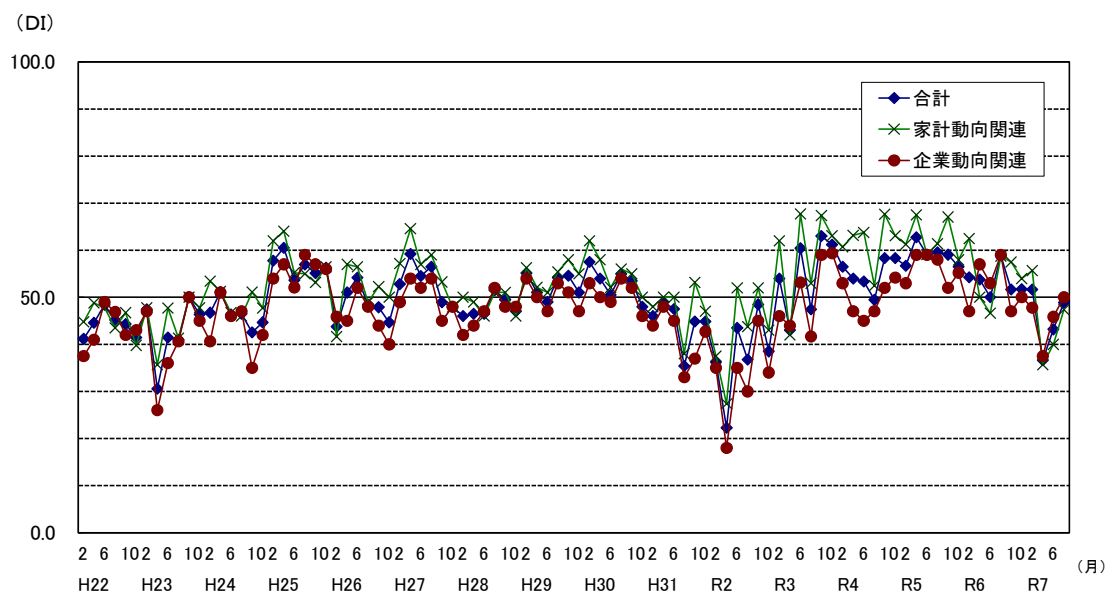
(DI)		令和7年			
		4月	6月	8月	(変化幅)
合計		36.7	43.2	48.8	(5.6)
家計動向関連		35.7	40.0	47.4	(7.4)
小売関連		31.8	40.0	45.0	(5.0)
飲食関連		—	—	—	(—)
サービス関連		41.7	50.0	55.0	(5.0)
住宅関連		—	—	—	(—)
企業動向関連		37.5	45.8	50.0	(4.2)
製造業		25.0	35.0	40.0	(5.0)
非製造業		40.8	48.7	52.6	(3.9)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和7年	4	0.0%	8.9%	40.0%	40.0%	11.1%
	6	2.3%	15.9%	38.6%	38.6%	4.5%
	8	2.3%	25.6%	41.9%	25.6%	4.7%
(変化幅)		(0.0)	(9.7)	(3.3)	(-13.0)	(0.2)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3－1 各分野における景気の現状水準判断 D I の推移

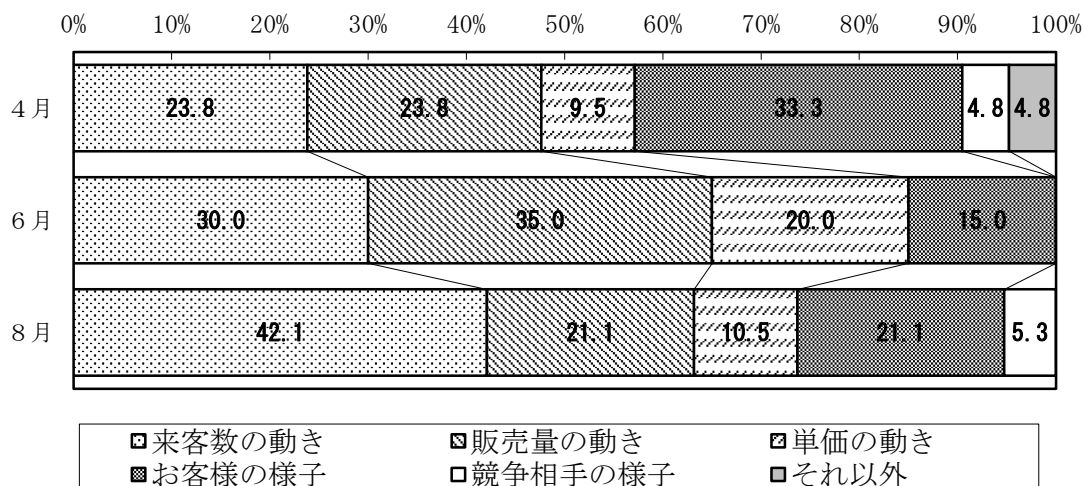
(D I)	令和 7 年		
	4 月	6 月	8 月
合計	52.2	46.6	44.8
家計動向関連	56.0	47.5	43.4
小売関連	54.5	45.0	37.5
飲食関連	—	—	—
サービス関連	62.5	58.3	55.0
住宅関連	—	—	—
企業動向関連	49.0	45.8	45.8
製造業	45.0	35.0	30.0
非製造業	50.0	48.7	50.0

（備考）家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

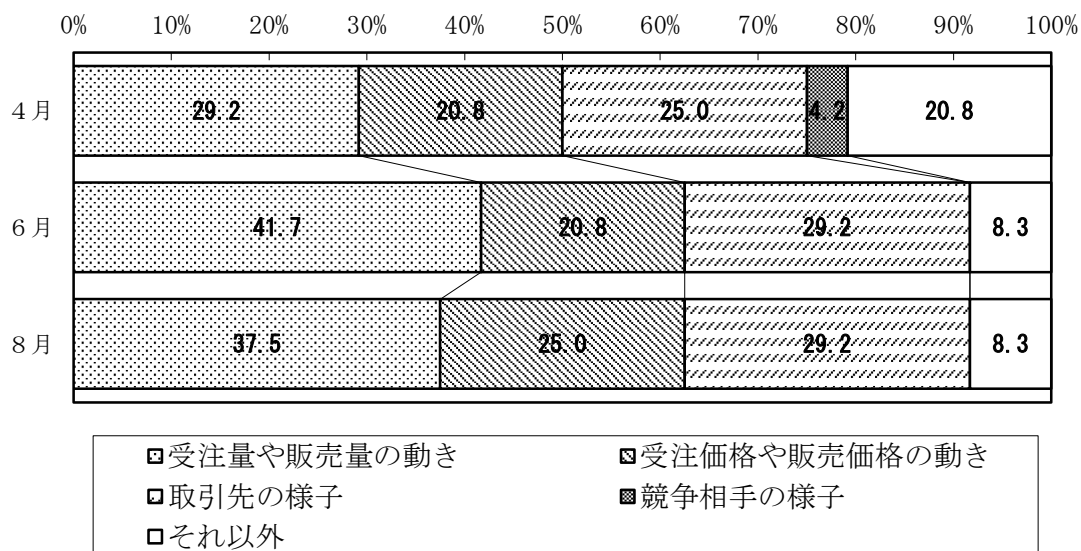
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・夏休みに入ってから観光客が少しずつ増えてきている。
		旅行代理店（店長）	販売量の動き	・夏休みの国内旅行、海外旅行の取扱が前年より上向いている。
	変わらない	一般小売店〔文具〕（販売担当）	来客数の動き	・来客数の動きに変化は余り感じないが、中国人客の消費減少が気になる。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・記録的な猛暑が影響し、来客数が減少している。訪日観光客数は増加している一方、前年同月と比べて買上客数が減少し、客単価も低下している。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・海外客の動向は5月頃から横ばいで、客単価、来客数共に前年を割っている。国内客については、都市部の店舗ほど高付加価値な提案が刺さり堅調である一方、地方や郊外店舗ほど構造的に厳しい状況は変わらない。
		高級レストラン（副店長）	単価の動き	・暑さで来客数が減ることもあるが、注文単価は変わらない。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・SNSで根拠のない災害の噂が流れ、アジア系訪日客の減少がみられる。
		競馬場（職員）	来客数の動き	・この3か月の来客数は、90～103%の間を行き来しており、前年から大きく良化したとはいえない。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・比較的、単価の高いコースの注文が増えている。特に若い世代が高いコースを希望している。
	やや悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・今夏の暑さもあるが、来客数が20%減少している。販売量も動きが余りなく、10%減っている。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・生活必需品を始めとする物価上昇が続いていることや天候不順の影響により、購買意欲は低調である。インバウンドも一段落した感がある。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・商材単価の値上げに伴い、直近の買上点数の減少と、セール時などでのまとめ買いが多くなっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年は夏休みに入ってから好調だったインバウンドの来客数が、今年は前年比70%と大幅に減少している。また、連日40度に迫る気温が続く、日中歩いている人が少ない。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は夏季休暇を長く取ったため、営業日数が減っている。また、猛暑が続く、天候不順も災いしたため、予約数も減少している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・インバウンドがやや減少傾向にある。今夏の猛暑の影響もあるのではないかと。
	悪くなっている	－	－	－
企業 動向 関連	良くなっている	建設業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・仕事量が多くなっている。受注物件を選別し、見積りしている。
		不動産業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・オフィスについては、企業業績の好調に伴う拡張移転及び館内増床のニーズが旺盛であり、賃料は引き続き上昇傾向、空室率は下落傾向が続いている。また、諸物価や人件費等の上昇に伴う館内テナントとの賃料増額交渉もスムーズに進んでいる。
	やや良くなっている	印刷業・製本業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・価格改定の受入れが進み、粗利が持ち直してきている。また、値引き圧力が弱まり、高付加価値案件の比率が上昇している。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	取引先の様子	・新規事業の受注があり、売上がこれまでの数字に上乗せされている。
	変わらない	出版業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・雑誌連動のイベントを開催したが、動員数は前年並みで、取扱が多かった雑貨は、前年より価格が上がったにもかかわらず販売数、売上共に確保できている。ボーナス時期とも重なり、生活にゆとりを求めている表れかもしれない。
		輸送業（従業員）	それ以外	・物価が上昇しているが、賃金は1円も上がらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏季休暇で余り動きがない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・暑さのためか日中の人通りが少ない。天気予報で外出を控えた方が良いといっているので、無理はない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・予算に対しての売上が同等程度で達成できているため、やや良い状態は3か月前と変わらない。
	やや悪くなっている	出版業（経営者）	それ以外	・物価の上昇と米国の関税政策が消費者心理を委縮させている二大要因なのではないか。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・資材費や人件費が上昇している。
	悪くなっている	—	—	—

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	百貨店（広報担当）	・国内客について大きく増減する要素はないが、海外客の動向は為替などの外部環境が悪化する要素がないこと、前年のような台風や地震が起きないことを前提とした上で、海外客向けのアプリや外商など当社の独自戦略の奏功が期待できる。
		高級レストラン（経営者）	・例年9月以降は会合や商談が増えてくる。また、秋からは飲食シーズンでもあり、料飲関係が伸びてくることを期待している。
		高級レストラン（副店長）	・暑さが落ち着く10月以降は来客数が戻る。また、11～12月の宴会予約、問合せが増えているので、良くなる。
		都市型ホテル（経営者）	・外国人客頼みでやや良くなると思うが、本来の国内景気は良くない。
		都市型ホテル（営業担当）	・今夏は外国人のビジネス客が減少している。
	変わらない	百貨店（総務担当）	・免税売上の一服感が継続していることに加え、国内客の消費マインドにも復調がみられない。
		百貨店（総務担当）	・雇用と所得の改善により、消費は回復基調といわれるものの、現場としては実感できない。米国の関税政策の影響や金融市場の動向が不透明な状況が当面続き、明るい材料は余りない。
		スーパー（店長）	・株価は上昇しているものの、消費に与える影響は限定的とみている。経済政策も見えないため、景気は変わらないか、悪くなる。
		コンビニ（店長）	・厳しい家計のなかでやりくりする様子に変わりはなく、今後も大きく変化することはない。
		衣料品専門店（店長）	・業界的に値下げを余りしない傾向にあるため、現状維持が精一杯である。
		旅行代理店（店長）	・販売の動きを見ると、3か月先に大きく変動する様子はない。
		競馬場（職員）	・上半期を通して、来客数は前年同月比105%を超えることがほとんどなく、今後も同じ状況が続くことが予想される。
	やや悪くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・米国との相互関税が以前より高くなるため、景気が悪くなるのではないかと。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・8～9月は動きが余りない時期でもあるので、現状を考えると良くはならない。
		一般小売店〔文具〕（販売担当）	・少しだが、インバウンドの減少や消費意欲の減退を感じる。
		一般レストラン（経営者）	・例年夏休みが終わると客が減るため、9月は悪い。外国人客が余り来店しない。
		理容室（経営者）	・米国の関税政策の影響や食品の値上げなど、悪くなる方向に向かっている。
	悪くなる	一般レストラン（経営者）	・要因は、物価高と所得の減少の2点に尽きる。
企業 動向 関連	良くなる	建設業（営業担当）	・物件数が増加しており、選別をして受注している。
	やや良くなる	印刷業・製本業（営業担当）	・価格転嫁の定着により採算が改善し、受注拡大への対応余力が確保できる。
		不動産業（企画担当）	・東京駅前エリアを中心に、オフィスの引き合いは強く、大型再開発物件も順調に入居テナントが内定している模様である。高層マンションは、月島・勝どきエリアを中心に人気が高く、引き合いが非常に強い。中央区内は全般的にマンション価格の高騰が続いている。
		卸売業〔食料品（鮮魚）〕（経営者）	・参議院議員選挙も終わり、政府も本格的に機能していく。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・新規事業の受注がもう少し続くことで、しばらくの間右肩上がりになると予想している。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・消費が引き続き拡大していく。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）	・上期末のため受注量が増加する。
	変わらない	出版業（営業担当）	・今秋も値上げの傾向は続くため、生活が苦しくなる。
		建設業（営業担当）	・発注量が本格的に増えてこない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・ 周辺の状況に特に変化は感じられない。
		輸送業（従業員）	・ 米国の関税政策など悪い要因しかなく、良くなるとは考えられない。
		通信業（営業担当）	・ 3 か月前は変化があるように思えたが、取引先の様子を見ると余り変化がみられない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・ 足元の日経平均株価の上昇や都市部不動産価格の高騰は、明らかに内需によるものではなく、今までこれらのけん引役とされてきたインバウンドが、オーバーツーリズムから日本人ファーストというように世論が変化しつつあることに戸惑いを感じる。ある意味で理解はできるものの、今後の最低賃金の引上げ、長期金利の底離れ等を顧みると、米国の相互関税協議の結果を楽観視できる状況にはないことから、判断は変わらないとしている。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・ 特に目立った変化を起こすようなものがみられない。
		経営コンサルタント	・ 物価がどこまで上昇するのか不安なことと、今年は最低賃金が特に上がり、人を採用しない中小零細企業や、給与を払いきれずに倒産する企業など、雇用の問題が出てきそうである。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・ 前年と比較すると、今月とさほど変わらない数値となっている。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・ 特に目立った明るい話題が見当たらない。ハロウィーン、クリスマスと年末に向けてイベントがあるが、規模や予算の増加は見込めない。
	やや悪くなる	新聞業（営業担当）	・ 新聞広告の受注量が前年に比べて大きく減った月があり、景況としては良くない。それ以外の月も前年度を超えず、長期的な減少傾向は変わらない。
		出版業（経営者）	・ 物価の上昇と米国の関税政策の影響が消費者心理を委縮させる二大要因である。
		印刷業・製本業（経営者）	・ 物価の上昇に対し、受注量の増加や価格転嫁が付いていけず、賃金の上昇が見込めないため、景気はやや悪くなる。
		建設業（経営者）	・ 人手不足のなか、最低賃金が更に上昇する予想であり、中小企業にとっては厳しい経営環境になる。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・ 特に都市部において閉店、廃業が増えているように見受けられる。全体として経済が縮小している。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経理担当）	・ 振袖フィーバーがいつかは終わる。
	悪くなる	○	○

（別紙） 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連	小売関連	25
	商店街・一般小売店	15
	商店街代表者	5
	一般小売店経営者・店員	0
	百貨店	5
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	4
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	2
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	1
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	1
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	1
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	6
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	1
	通信会社社員	1
	レジャー施設関連	1
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	0
	その他サービス	1
	美容室経営者・従業員	1
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連	企業動向関連	25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	0
	食料品製造業	5
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	0
	新聞業	5
	出版業	1
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	2
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業（精密機械を含む）	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食物品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0